

## 私の留学体験記

広島県立油木高等学校 3年 横山 遥（よこやま はるか）

留学期間 令和5年7月28日 ～ 令和5年8月11日(15日間)

留学先 Bundaberg Christian College(Bundaberg, Australia)



私は今回 2 週間のオーストラリア語学研修に参加しました。高校生生活最後の夏休み、学びしかないとでも刺激的な 2 週間になりました。現地に着いて一日目、初めてホストファミリーに会った時、ホストファミリーの方が私のことについてたくさん質問してくれたのですが初めて聞くネイティブな英語にパニックで、何も分からなくなりました。その時は、生きていけないのではないかと思ったほどです。でも最終日には楽しすぎて、帰りたくないと思っていました。そんな私の 2 週間での変化と気づきを報告します。

まず、私が現地で 2 週間通った学校での気づきを報告します。私はたくさんの授業に参加したのですが、授業の内容に文化の違いを感じました。オーストラリアでは宗教の授業がありました。私は宗教の授業を受けたことがなかったので驚きました。また体育の授業とダンスの授業が別になっていることにも文化の違いを感じました。オーストラリアの子たちは日本の子たちより背が高い子が多く、初めは少し怖かったけど、話してみてもわかったことは、みんな高校生だということです。話している内容は本当にたわいもない会話で私も会話に混ざることが出来ました。上の写真は最終日に友達がお別れ会ということで、ケーキやお菓子を持ってきてくれた時の写真です。みんなも私のことを友達だと思っていてくれたことがとてもうれしかったです。この瞬間は忘れられません。英語が流暢に話せなくても壁を作らず、相手を尊敬する気持ちをお互いが持っていれば必ず通じ合うことが出来ると感じた瞬間でした。

次に休日や放課後についてです。休日と放課後は基本的にホストファミリーと過ごしました。ホストファミリーと友達とゲームセンターに行った時に文化の違いを感じました。その施設はボーリングやゲームセンターなどが一緒になっていて、常に大きな音で音楽が流れていたのですが、決まった曲が流れるとゲ

ームを中断してたくさんの方が踊りだしたのです。高校生だけではなく。大人も踊りだすのです。その光景を見た時、文化の違いを感じました。

今回の研修では楽しみながら、たくさんの方に挑戦することが出来ました。会話の中で自分の思いをうまく伝えられず悔しい思いをすることが何度もありましたが、このことが英語を勉強することに対してのモチベーションにつながりました。課題、改善点を見つけて家で反省する、次の日に使ってみる、課題が見つかる、反省。毎日この作業の繰り返しでした。勉強が好きではない私からするとこの作業は、少し辛い作業であるはずなのですが、毎日少しずつ英語ができるようになっていくと実感することができ、みんなと繋がること出来る喜びから、この作業が全く、苦に感じませんでした。日本では英語の授業で習ったことを、実践できる場があまりありません。そのため毎日英語に触れることができる現地で得た 2 週間分の英語力は、日本で勉強して得られる 2 週間の英語力とは比べものにならないものだと感じ、このことを後輩たちに伝えなければいけないと強く感じました。また経験に対しての価値観が大きく変化しました。SNS で調べたらなんでも分かってしまうこの時代、現地に行かなくてもオーストラリアの情報を手に入れることが出来ます。でも実際に行ってみるとたくさんの方の経験を通して、画面上では感じられないものがあるなと思いました。

今回の研修を通して、ホストファミリー、学校での生活を手助けしてくれた友達たち、引率して下さった先生、たくさんの方に出会うことが出来ました。私にたくさんの方の出会いをくれた <英語>の勉強を継続して頑張っていきたいなと思っています。目標は、次会う時に今回の研修でお世話になった現地の方々に自分の言葉で感謝を伝えることです。ここまで自分を成長させてくれた今回の研修を実施するためにたくさんの方の支援をして下さった神石高原町や学校の先生、背中を押してくれた親に本当に感謝しています。